

令和7年度京都大学公共政策大学院

入学試験問題（一般選抜）

科目名：現代政治分析

この表紙の次には、以下の出題分野の試験問題が1ページに各2問ずつ、計3ページで6問ある。

1. 政治学
2. 政治過程論
3. 行政学

6問から2問を選んで解答すること。

1問につき、答案用紙1冊を用いて解答すること。

答案用紙ごとに、所定の欄に科目名、出題分野名、問題番号を記入すること。

科目名 現代政治分析

出題分野名 政治学

問題 1 日本の参議院議員の選挙制度はどのようなものか。参議院の権能、憲法上の位置づけを踏まえつつ、選挙制度の特徴とその変遷、またそれがもたらしたと考えられる政治的帰結について論じなさい。

問題 2 日本の国会における委員会制の効果について政治学的に論じなさい。

科目名 現代政治分析 出題分野名 政治過程論

問題 1 ポスト工業化は公共政策にどのような変化をもたらすか。ポスト工業化について説明した上で、論じなさい。

問題 2 「民主主義体制は、権威主義体制と比べて新型コロナウイルス感染症の抑制に失敗した」という見解がある。これについて、あなたはどうか考えるか。論じなさい。

科目名 現代政治分析 出題分野名 行政学

問題1 日本の中央府省において、内閣官房はいかなる組織であるか、また、それが果たしてきた役割はどのようなものか、時期による違いを明確にしながら、論述しなさい。

問題2 第一線職員（ストリートレベル官僚）とはどのようなものか、具体的な職種を例に挙げながら、その特徴を述べなさい。